

市町名	長泉町
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	○

実施年度	H27	○
	H28	○



ボランティアスタッフとの班別ミーティング

活動名	長泉通学合宿 「わんぱく通学合宿」
実施箇所名	コミュニティながいずみ（長泉町コミュニティセンター）
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の宿泊可能な施設を拠点に、4年生～6年生までの年齢の異なる子ども達が2泊3日の共同生活をしながら、登下校する。以前は、実施場所の地区の方々が食事や交流活動を実施したが、今年度は、ボランティアスタッフに支援していただきながら自炊にチャレンジした。 ・6人の生活班・係りを作り、児童に役割分担を与える。また、各班に専属のボランティアスタッフが付き、児童をリードしたり、見守ったりする形式が引き継がれている。 <p>【特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小学校区（3校区）に募集をかけるため、校区を超えて児童同士、また、地区の協力者との親睦を図ることができる。 <p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく多くの児童に体験の機会を与えるため、応募者多数の場合には、なるべく合宿未体験者を優先する。 ・ボランティアは支援可能な時間帯に限られるため、入れ替わり、交代をしながら合宿をしている。
活動の成果	異年齢集団で、3小学校合同での共同生活をするため、初日は児童の間に緊張感が漂っているが、衣・食・住といった生活体験をすることで、短時間で、お互いに仲よく、また、協力し合う心をはぐくむ姿が見られる。さらに、児童の活動を支援する立場で集まった地域の大人たちにも、苦労はあるものの、児童と同様の効果や満足感が得られている。
課題等	・ボランティアについては、時間交代をしながら、児童の支援をしているが、宿泊や長時間軸となって合宿を手伝うことができる方が減ってきている。受け継がれてきた合宿の精神を守りつつ、無理の無い運営方法を模索する時期だと考えている。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア・実行委員 計20名 ・参加児童29人（1名欠席）

市町名	島田市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	○

実施年度	H27	○
	H28	○



高校生による宿題支援

活動名	地域における通学合宿事業
実施箇所名	市内 6 校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>子ども達の自主性、協調性、責任感等を育み、また、地域の子どもであることを確認し、地域の子どもは地域で育てる意識を高めるため市内の 6 小学校で通学合宿を実施。参加対象は 4 ～ 6 年生の希望者（1 校は 3 ～ 6 年生）。</p> <p>5 小学校・・・2 泊 3 日 1 小学校・・・3 泊 4 日</p> <p>各学校によって、様々な工夫を展開。宿泊施設が高等学校の合宿施設で行っている小学校については、合宿中に高校生に宿題を教えてもらったり、学校の施設見学を行ったりと、地元の高校生との交流を図り、また、宿泊施設の近くにお寺がある小学校については、お寺に赴き座禅体験を実施した。</p>
活動の成果	活動の趣旨でもある、自主性（親に頼らず自分のことは自分で行う）、協調性（異学年の友達との協力）、責任感（上級生は下の学年の面倒をみる）が育まれている。また、地域の方々と話をする機会が生まれ、地域の子どもは地域で育てる意識が芽生えている。
課題等	市内の 1 部地域のみの実施であるため、市内の子ども達に平等な経験を与えられない。実施をしたいが、泊まる場所や運営するスタッフの確保が難しく実現ができない学校もある。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	平成28年度通学合宿参加者数 計183人

市町名	掛川市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	○

実施年度	H27	
	H28	○



避難所での過ごし方講座

活動名	防災教育をテーマとした通学合宿の取組
実施箇所名	千浜小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>防災関係の生活体験や講座等によって防災教育を推進するとともに、非常時の対応や心構えについての知識・理解を深め、「自らの命を守るために主体的に行動する」ための実践力や「地域の防災に積極的にかかわる」ための防災意識を高める目的で実施した。活動内容は、地震についての講話、身近な応急手当、災害図上訓練ＤＩＧ、非常食体験、災害判断ゲームなどである。これを、災害発生時には救護所となる地域施設を会場にした通学合宿のプログラムに組み込んだ。運営の主催はＰＴＡとし、講座内容を市教委、自主防災会連合会、千浜地区消防団、まちづくり協議会、県西部危機管理局等と連携を図り、様々な防災学習と宿泊体験をからめて充実した活動となるようにした。避難所生活の疑似体験として、ダンボールによる簡易ベッドを作り、実際に利用する体験を盛り込んだ。</p>
活動の成果	<p>４つの講座と宿泊体験を通して、子どもたちの防災意識を高めることができた。特に、子どもたちが県認証「ふじのくにジュニア防災士」の資格を取得できたことは、身につけた実践力を発揮する場面において自信になったといえる。まちづくり協議会の防災部会による協力が得られ、子どもと地域をつなぐパイプがより大きくなった。</p>
課題等	<p>どうしても学校主体の活動になってしまいがちであり、地域主体の活動に変えていきたい。今までの通学合宿とは違って防災をテーマとしたため、今後の児童の希望数がどうなるか心配される。</p>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>参加児童32名、教職員13名、まち協12名、南消防署員7名、西部危機管理局1名、PTA19名、市教委3名</p>

市町名	磐田市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	○

実施年度	H27	
	H28	○



ダンボールで宿泊スペース作り

活動名	心を養う会 防災体験合宿
実施箇所名	向笠交流センター
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>向笠子ども会では、毎年1泊2日のキャンプを行っていた。今年度は活動内容に防災体験を取り入れ、通学合宿の新規メニュー「防災体験合宿」として実施した。</p> <p>○子どもたちが防災講座や避難所体験をすることにより、「自助」や「共助」の精神を学び、知識を身に付けるとともに、地域の防災力の向上を目指すこと。</p> <p>○事業を通じて、学校・家庭・地域の連携を図り、地域全体で子どもたちを育む環境を整備すること。</p> <p>の2つを目的とし、8月6日（土）～7日（日）に行われた。</p> <p>防災に関する取り組みとして、ダンボールを使った宿泊スペースを子どもたちが作り、避難所生活を体験した。また、新聞紙スリッパ作りや震災時の避難所の様子などの語り聞かせ、心肺蘇生法と水消火器の体験もした。地域住民の協力で、食事作り（飯ごうでの米飯炊き）も行われ、仲間と協力して過ごすことで、いざというときに自分は何ができるかを考え、行動できる子どもたちを育んだ。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災体験活動を行ったことで、地域住民も防災についての関心が高まり、地域防災を考える機会となった。 ・ 子どもたちは防災講座や避難所体験に仲間と協力して取り組み、自助や共助の大切さを学んだ。体験を通して学ぶことで、実感を伴いながら知識を身に付けることができた。 <p><子どもたちの感想より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災体験で自分の身を守ることや他の人達を救うことを学べた。 ・ ダンボールで意外と大きな物ができることが分かった。 ・ 友達と楽しく過ごせたとし、いろいろな体験ができた。
課題等	防災体験活動を指導・支援してくれる団体を探すことに苦労する。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>主催：向笠子ども会</p> <p>協力：地区自治会（青少年健全育成会、防犯委員、防災委員）、いわた減災ネットワーク連絡会、磐田消防署、ボーイスカウト磐田、ほか</p> <p>参加児童：磐田市立向笠小学校校区在住の小学生4年～6年の内、40名</p>